

■(高屋)柳亭種彦  
りゅうていたねひこ  
蘭学階梯・・・1783＝

旗本の戯作者。実証的な作風で、「偽紫田舎源氏」で第一人者になるも、〈天保の改革〉の犠牲に。

生、江戸の人。小普請組に属する食禄200俵の幕臣。

田沼意次失脚1786＝ 3歳：家が下谷御徒町の先手組屋敷に移り、以後長く居住、

ワクサン来日・ 1792＝ 9歳：  
松平定信引退1793＝10歳：

プロトノ来航・ 1796＝13歳：\_父が病没したため、家督を継ぎ、小普請組に入るが、

蝦夷地直轄始1799＝16歳：この頃、\_唐衣橋洲に入門して狂歌に親しみ、

宣長没・・・ 1801＝18歳：

いづノ来航・ 1804＝21歳：この頃、\_戯作活動を志し立川焉馬に師事。

青洲麻酔手術1805＝22歳：この頃、結婚、

いづノ報復・ 1806＝23歳：この頃、\_古典・狂歌・川柳などを学ぶ一方、戯作の筆を取り始め、

いづノ船狼藉・ 1807＝24歳：\*読本「奴の小まん」で文壇に登場、

フェイト号事件 1808＝25歳：\_「近世怪談・霜夜星」「総角物語」「阿波之鳴門」などを刊行し読本制作を目指す。

浮世風呂・・・ 1809＝26歳：\_読本「浅間嶽面影草紙」が好評を得た。

・・・ 1810＝27歳：

ゴロポン拿捕 1811＝28歳：合巻の処女作「鱧庖丁青砥切味」、以後数点手がけるうち、

高田屋拿捕・ 1812＝29歳：\*読本「逢州執著譚」が出世作となり、

浮世床・・・ 1813＝30歳：\_「緞手摺昔木偶」は曲亭馬琴の評価を得ている。しかし演劇趣味の強いその作風は馬琴や他の先輩読本作者たちの強勁な作風に伍せず、合巻に制作の主力を転向。演劇好きで、他の芸能娯楽にも趣味をもつ資質が、絵画要素が主位を占め画文が有機的に提携するこの合巻に適合した。

・・・ 1815＝32歳：\_特に歌舞伎趣味を極めた「正本製」が成功を収めて地歩を確立、挿絵は浮世絵師歌川国貞が担当。

伊能測量終・ 1816＝35歳：「柳亭浄瑠璃本目録」成る。

水野忠成老中1818＝37歳：

群書類従完結1819＝36歳：

・・・ 1820＝37歳：\_歌川国貞と密に提携して、歌舞伎趣向の濃い中短編の佳作「画傀儡二面鏡」、

国貞と連携して次々と出版する一方、もともと集書の尚古趣味があったところに考証癖も加わって、

いづノ鳴滝塾1824＝41歳：考証随筆「還魂紙料」を刊行、

いづノ事件・ 1828＝45歳：

いづノ追放・ 1829＝46歳：\*合巻界に大作古典の翻案による長編作流行の興起を見て、「源氏物語」に取材し、新趣向を凝らした大作「修紫田舎源氏」を発表し、大好評を得て合巻界の第一人者となった。ほぼ同時作の、元禄期の諸国はなしものを活用した「邯鄲諸国物語」も好評で、以後は主としてこの2著の制作に力を傾注する。

富籤流行・・・ 1830＝47歳：\_歌川国貞と組んだ「御詠染遠山鹿子」などを制作し、彼の特質である江戸初期文芸の知識を生かした品格ある作風で声価を高め、

大塩平八郎乱1837＝54歳：

豊富な例書を引く実証的態度は群を抜いており、信憑度が高い。

天保改革始・ 1841＝58歳：\_「用捨箱」その他を著したが、

天保改革弾圧1842＝59歳：\*水野忠邦の改革に筆禍を得て譴責を受け、制作中の作品は中断、その後まもなく没した。